

令和元年9月2日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K09870

研究課題名(和文) 南九州における地域在住高齢者の抑うつに関する縦断的介入研究

研究課題名(英文) The longitudinal intervention study about depression of elderly residents in south kyushu, Japan

研究代表者

藤瀬 昇 (FUJISE, NOBORU)

熊本大学・保健センター・教授

研究者番号：20305014

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：地域在住の高齢者に対する2段階のうつ病スクリーニング調査を実施した。3年間での有効回答数は2887名(56.2%)、2次面接調査への参加者は202名(該当者の24.3%)であった。面接または電話という、異なった方法で保健師フォローとなった2つの住民群において、抑うつが疑われる人(GDS陽性者)の割合と抑うつの程度(GDS平均点)が他の群に比べ有意に高い結果であり、両群は抑うつにおいて類似した集団であることが推測された。したがって、高齢者に対する2段階のうつ病スクリーニング調査において、抑うつのリスクが高いと思われる住民に対する調査方法として電話調査は有用と考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者に対する2段階のうつ病スクリーニング調査において、抑うつのリスクが高いと思われる住民に対する調査方法として、電話調査は有用と考えられた。

研究成果の概要(英文)：We conducted a two-stage depression screening survey for elderly community residents. The number of valid responses in three years was 2887 (56.2%), and the participants in the second interview survey were 202 (24.3% of the corresponding persons). In two groups of residents who were followed by public health nurses in different ways such as interviews or phone calls, the proportion of people suspected of being depressed (GDS positive persons) and the degree of depression (GDS average score) were significantly higher than in the other groups. The results were high, and it was assumed that both groups were similar groups in depression. Therefore, in the two-stage depression screening survey for the elderly, the telephone survey was considered to be useful as a survey method for the population believed to be at high risk for depression.

研究分野：老年精神医学

キーワード：高齢者の抑うつ 地域介入 地域コホート 自殺対策

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国の自殺者数は2年連続で3万人を下回ったとは言え、依然として高い自殺率を示しており、うつ病の予防、早期発見・治療は国を挙げての喫緊の課題となっている。人口の高齢化がさらに進む中でとくに大きな問題となっているのは高齢者のうつ病対策である。一方、うつ病スクリーニングは自殺予防効果が実証されてきている数少ないアプローチであり、わが国においては、松之山方式に代表される郡部の高齢者自殺死亡率の低減に関する知見が蓄積されてきている(高橋ら 1998, Oyama et al. 2008)。

熊本県でもとくに宮崎県に隣接する球磨郡あさぎり町は従来から自殺率の高い地域である。我々の教室では平成20年の予備的調査に始まり、県による自殺対策事業が終了した後も現在まで町と協働して、高齢者を対象としたうつ病スクリーニング、精神科医や保健師によるこころの相談事業、うつ病に関する啓発事業といった地域介入を継続して行っている。

一方、これまでの調査の中で、アンケートによる一次調査では比較的高い回収率が得られているものの、面接を行う二次調査への参加率が年々低下してきている。従来から、面接調査への参加が増えらるとうつ病予防介入の効果につながる事が指摘されており(坂下, 2011)、二次調査への参加率の低下が本研究の大きな課題となっている。そもそも、二次調査に参加しなかった一次スクリーニング陽性者の中にこそ抑うつが強い住民が潜んでいることは容易に予想され、実際、われわれの調査において、一次スクリーニング陽性者の中で二次調査に参加した群と参加しなかった群とを比較したところ、参加しなかった群のほうが有意に抑うつ者が多く、抑うつの程度も強いことが分かり、このことも学会で報告した。このような調査背景の中、我々は二次調査に参加しない一次スクリーニング陽性者に対するアプローチの必要性を痛感していた。

2. 研究の目的

熊本県の自殺好発地域において、高齢者に対して継続的なうつ病スクリーニングを実施することにより、長期的な視点での危険因子を明らかにするとともに、二次調査に参加しない一次スクリーニング陽性者に対して介入を行うことにより、同地域における高齢者のうつ病およびうつ状態の出現率の変化を検討し、ひいては高齢者の自殺死亡率の低減につなげたい。

3. 研究の方法

対象地区は毎年、対象者数がおおよそ1500名前後になるように選定し、3年間で町全体を一巡することになり、3年ごとに町全体としてのうつ病およびうつ状態の出現率でうつ病スクリーニングの効果を評価する。具体的には、毎年1月時点で前回調査と同一地区在住の65歳以上の高齢者のうち、同年4月から1年間の間に、本研究に同意の得られた全ての住民を対象とする。一次調査(アンケート調査)では、本調査に関する説明に対し同意の得られた住民を対象として、自殺との関連性が明らかとなっている、抑うつ、経済的困窮、希死念慮の有無およびアルコール消費量について調査する。抑うつの評価には、Geriatric Depression Scale (GDS)を用いる(Burke et al. 1991)。アルコール消費量については習慣的飲酒の量と頻度を尋ねる。経済状況については「頭から離れないほどの経済的心配がありますか」との設問に対し、「ある、ない」の二択で回答する。希死念慮については「死にたいと考えることがありますか」との設問に対し「全くない、たまにある、ときどきある、いつもある」の四択で回答する。二次調査への抽出基準は、GDSの15項目中6項目以上、経済的困窮は「あり」との回答、希死念慮については「全くない」以外の回答、のいずれかとし、該当した住民に対しては二次の面接調査への参加を郵送にて案内する。二次調査はできるだけ住民が足を運びやすい地区の公民館や集会場において行う。来場者全員に対し、複数名の精神科医師が、DSM-の診断基準に基づき大うつ病の診断面接を行う。診断に苦慮した場合に備えて、熟練した精神科医師に常に相談できる体制も整える。面接調査終了後には、面接に参加した精神科医全員と地元保健師とで、大うつ病と診断された住民および何らかの精神疾患が疑われた住民への対応について話し合う。同意の得られた住民に対しては個別介入として、専門医療機関への紹介、かかりつけ医への情報提供、相談事業の紹介、保健師の訪問、経済問題担当行政部門への紹介、各種予防事業への導入など個別の介入を行う。

一方で、案内を郵送したにもかかわらず二次調査に参加しなかった住民全員に対し、精神科医、精神保健福祉士または保健師が電話もしくは訪問を行い、Patient Health Questionnaire-2(PHQ-2)(Whooley et al., 1997)についての聞き取りを行う。聞き取り者は簡易構造化面接についてのトレーニングを受けており、適宜、経験豊富な精神科医への相談が可能な体制を整えておく。うつ病エピソードの有無についての聞き取りを行い、状況に応じて前述の面接会場に準じた対応の必要性について話し合う。これら二次調査に参加しない一次スクリーニング陽性群において、生活背景や精神医学的特徴について解析を行い、有効な介入の方法を検討する。また、これらの不参加群に対する介入を継続して実施することで、同地域におけるうつ病およびうつ状態の出現率、ならびに自殺率に与える効果を評価する。

4. 研究成果

3年間（あさぎり町全体を網羅）での調査結果としては、1次アンケート調査の対象者は5134人で、有効回答数は2887人（56.2%）であった。そのうち2次面接調査該当者は831人であった。202人（24.3%）が2次面接調査に参加し、何らかの精神疾患の診断が付いた人も含め役場保健師によるフォロー対象となった人が32人であった。2次面接調査に参加しなかった629人のうち、電話調査により役場保健師によるフォロー対象となった人が67人であった。また、2次面接調査該当者831人を、面接調査に参加し保健師フォローとなった群（A群）、面接調査に参加し問題なかった群（B群）、面接に不参加の住民について、電話調査に参加し保健師フォローとなった群（C群）、電話調査に参加し問題なかった群（D群）、電話でも連絡がつかなかった群（E群）の5群に分けて、GDS平均点、GDS陽性者の割合、希死念慮、経済的不安などについて比較したのがである。平均値の比較には一元配置分散分析およびBonferroni法による多重比較法を利用し、比率の比較にはz検定を行った。その結果、A群は、GDS平均点、希死念慮ありの人、GDS陽性かつ希死念慮ありの人の割合がB群、D群、E群より有意に高かった。またA群は、GDS陽性者の割合がB群、D群より有意に高く、希死念慮が持続している（「いつも」と回答している）人の割合がD群より有意に高かった。一方、C群は、GDS平均点、GDS陽性者の割合、GDS陽性かつ希死念慮ありの人の割合がB群、D群より有意に高かった。さらに、希死念慮が持続している（「いつも」と回答している）人の割合はE群（電話調査不可の住民）で高い傾向がみられた。年齢、性別、経済的不安などについては有意差を認めなかった。

これらの結果から、面接または電話という、別の調査方法で保健師フォローとなった群において、抑うつが疑われる人（GDS陽性者）の割合と抑うつの程度（GDS平均点）が他の群に比べ有意に高い結果であり、両群は抑うつにおいて類似した集団であることが推測された。したがって、われわれの調査において、2次面接調査への参加率は依然として低いものの、抑うつ者のスクリーニングにおいて、抑うつのリスクが高いと思われる住民への面接調査には不参加だった場合に、代替手段として電話調査を行うことは大変有用と考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 13 件)

藤瀬昇．高齢者の気分障害とメンタルヘルス．精神医学 61(1), 31-37, 2019

藤瀬昇、西良知、濱本世津江、他4名．高齢者のうつ病予防のための地域介入．予防精神医学 Vol.3(1), 62-70, 2018

遊亀誠二、藤瀬昇．「神経質（即所謂神経衰弱）に就いて」における神経質概念についての報告．日本森田療法学会誌 29: 155-166, 2018

Kato T, Furukawa TA, Mantani A, 他32名(20番目). Optimising first- and second-line treatment strategies for untreated major depressive disorder - the SUN-D study: a pragmatic, multi-centre, assessor-blinded randomised controlled trial. BMC Medicine, 16, 103, 2018

Kajiya, T., Sugawara, H., Kajio, Y., 他5名(4番目) . Effect of lamotrigine in the treatment of bipolar depression with psychotic features. Annals of General Psychiatry Aug. 9;16:31, 2017

Koyama A, Matsushita M, Hashimoto M, Fujise N, 他6名 . Mental health among younger and older caregivers of dementia patients. Psychogeriatrics 17: 108-114, 2017

Fujise N, Abe Y, Fukunaga R, 他4名 . Comparisons of prevalence and related factors of depression in middle-aged adults between urban and rural populations in Japan. J Affect Disord 190: 772-776, 2016

Koyama A, Hashimoto M, Tanaka H, Fujise N, 他9名 . Malnutrition in Alzheimer's disease, dementia with Lewy bodies and frontotemporal lobar degeneration: comparison using serum albumin, total protein and hemoglobin level. PLOS ONE 11(6):e0157053, 2016

Koyama A, Matsushita M, Hashimoto M, Fujise N, 他6名 . Mental health among younger and older caregivers of dementia patients. Psychogeriatrics 2016 Mar 10. doi:10.1111. [Epub ahead of print]

Campbell KE, Dennerstein L, Tacey M, Fujise N, 他 2 名 . A comparison of Geriatric Depression Scale scores in older Australian and Japanese women. *Epidemiol Psychiatr Sci* 8: 1-9, 2016

Koyama A, Fujise N, Nishi Y, Matsushita M, 他 3 名 . Suicidal ideation and related factors among dementia patients. *J Affect Disord* 178 : 66-70, 2015

西良知、藤瀬昇、池田学 . 認知症に伴う長引く抑うつ症状への対応 . *精神科臨床サービス* 16: 237-243, 2016

藤瀬昇、小山明日香、向坂香織、西良知、他 3 名 . 熊本県球磨郡あさぎり町における高齢者のうつ病予防のための地域介入 . *こころの健康* 31:35-40, 2016

Koyama A, Fujise N, Nishi Y, 他 4 名 . Suicidal ideation and related factors among dementia patients. *J Affect Disord* 178 : 66-70, 2015

〔学会発表〕(計 10 件)

西良知、小山明日香、福永竜太、他 4 名 (7 番目) . 熊本県球磨郡あさぎり町における高齢者のうつ病予防のための地域介入について . 第 42 回日本自殺予防学会 (檀原市) 9 月 22 日 2018

藤瀬昇 高齢者のうつ病予防のための地域介入 . 第 21 回日本精神保健・予防学会 那覇市 12 月 9 日 2017

西良知、小山明日香、福永竜太、他 5 名 (4 番目) . 熊本県球磨郡あさぎり町でのうつ病スクリーニング調査後に保健師によるフォローアップを必要とした住民の特徴について 第 41 回日本自殺予防学会 つくば市 9 月 23 日 2017

今井正城、小山明日香、西良知、他 3 名 (3 番目) . 認知症者の介護をしている地域在住の高齢介護者における抑うつや健康関連 QOL の検討 第 36 回日本社会精神医学会 東京 3 月 4 日 2017

Nishi Y, Koyama A, Abe Y, 他 5 名 (4 番目) . Characteristics of elderly residents required follow-up by public health nurses with depression screening in a rural area in Japan. IPA Asian regional Meeting, Taiwan, December 12, 2016

Fujise N, Koyama A, Abe Y, 他 3 名. Living alone is associated with depression among male elderly in a rural community in Japan. WPA REGIONAL CONGRESS OSAKA Japan, Jun 6, 2015

藤瀬昇、西良知、中山智子、他 5 名 . 地域高齢者うつ病スクリーニング調査でうつ病と診断された群の特徴 . 第 34 回日本社会精神医学会 , 富山 , 3 月 5-6 日 , 2015

向坂香織、松本治子、上村素子、他 6 名 (5 番目) . シンポジウム : 地域介入とスクリーニング . 高齢者自殺予防のためのスクリーニングによる介入 - 熊本県あさぎり町における実践 - . 第 39 回自殺予防学会総会 , 青森 , 9 月 11-13 日 , 2015

西良知、小山明日香、福永竜太、他 4 名 (3 番目) . 熊本県あさぎり町における老年期うつ病予防のための地域介入と自殺率の推移 . 青森 , 日本自殺予防学会 , 9 月 13 日 , 2015

西良知、小山明日香、福永竜太、他 4 名 (3 番目) . 中高年の地域住民における食習慣と抑うつとの関連について . 第 35 回日本社会精神医学会 , 岡山 , 1 月 28-29 日 , 2015

〔図書〕(計 1 件)

藤瀬昇、比嘉千賀、岡本重慶 共編 . 森田療法と熊本五高 - 森田正馬の足跡とその後 - . 熊日出版 (熊本) 2018

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :

番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：池田 学
ローマ字氏名：IKEDA MANABU
所属研究機関名：大阪大学
部局名：医学系研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：60284395

研究分担者氏名：小山 明日香
ローマ字氏名：KOYAMA ASUKA
所属研究機関名：熊本大学
部局名：生命科学研究部
職名：助教
研究者番号（8桁）：50710610

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。